

2年5組1班の活動報告です。平田、上野、河路、坪井、小津、嶋口

◇ 研究テーマ「貧困をなくそう」

今、日本では隠れたところで貧困が広がっている。

貧困には絶対的貧困と相対的貧困があります。絶対的貧困は皆さんが想像するようなアフリカでの貧しい人々の様子です。日本では後者の相対的貧困が広がっています。

その中で僕たちは貧しい人々のためにある生活保護について調べました。

【関連するSDGs (アイコン)】



◇ 実践したこと (フィールドワークなどで調べて分かったこと)

・関市役所に行き、話を聞いてきました。

関市では生活保護受給者に月 68000 円支給している。

関市の生活保護世帯の背景について 高齢者、障害、傷病、母子が多くを占めている。

8050 問題(80 代の親が 50 代の子供を養っているという状況)、仕事のことが分からないなど

・働かない 50~60 代、健康なのに働かない、指導を行っても働く意欲のない中高年の増加
共通点は学校卒業もしくは途中から非正規雇用者となり転職を繰り返して失業してからの生活保護申請が多い点 事例；途中まで働いていて体を壊してしまうそして年を取っているので働く場所がない。仕事に就いたとしても 3 ヶ月でやめる方も多い

関市では、『福祉の窓口』の開設など多くの支援体制を整えている

◇ 提案

貧困について僕たち学生ができることは少ない、しかし多くの人にこれを知ってもらうことができる

◇ 活動を通じて考えたこと

貧困には多くの種類が、ひとりひとりに背景がある。一概に貧困という言葉にまとめてはいけないと思う。困っている人たちひとりひとりにコミットする支援をするべきだと思うしまだまだ僕たちにはできることがたくさんある。

自分たちがどれだけ恵まれているかわかった。将来は貧困にあえいでいる人々を助けたいと思う。これで活動は一区切りつくが、これからも日本の貧困状態を広めていきたい。

調べてみないとわからないことが多くあった。今回知ったことを忘れずに、貧困に対してできることがあれば積極的に参加していきたい。

生活保護という聞いたことのある言葉だけど調べたり考えたりすることでよりよい知識を身に付けることができた。

身近な貧困について知ることができて良かった。自分の知らない場所での貧困についても調べてみたい。

今まではぼんやりとしかわからなかった貧困の輪郭がはっきりと分かったと思う。今後も貧困について知識を深め、自分にできることを探していきたい。